



目黒南中だより

令和7年度 第11号
令和8年3月2日発行
目黒区立目黒南中学校

【教育目標】 自立 協創 信頼



目黒南中学校ホームページ

他者と協働しながら自己調整を重ねる

校長 金子弘樹

第25回オリンピック冬季競技大会は現地時間の22日夜、閉会式が行われ、17日間の熱い闘いに幕を下ろしました。日本選手団は計24個のメダルを獲得し、1大会におけるメダル獲得数で最高記録を更新しました。フィギュアスケートやスノーボード等の各競技や団体種目での活躍が連日報道されていましたが、メダル獲得や目標を達成した選手だけでなく、参加した選手やスタッフの皆様の健闘を讃えるとともに心を動かされた瞬間やエピソードに感謝の気持ちを伝えたいと思います。

フィギュアペアで金メダルを獲得した「りくりゅう」ペアこと三浦璃来選手、木原龍一選手の大逆転の演技は感動とともに大きな励みになった人も多いと思います。三浦選手の「まだ終わっていない。積み重ねてきたものがあるんだから」の言葉が木原選手の心の炎を再燃させ、決意と覚悟を固めることができたというコメントがありました。また、スノーボードハーフパイプで連覇を狙った平野歩夢選手は、1月の大会で骨盤など複数箇所を骨折する大怪我を負いながらも、リハビリを経てオリンピックに挑みました。競技直後、「無事生きて帰ってこれて良かった」「今まで歩んできたものってというのは、無駄なものじゃないと思うんで、またゼロから積み上げていければなと思ってます。」と語っていました。両者ともに、積み重ねてきた取組やその過程を大切にすることを言葉で表現しています。その取組を多くの人が努力と呼んでいます。その思いと努力が選手自身の励みとなり、また大きな自信につながっていたのではないのでしょうか。継続は力なりといいますが、継続していることが励みになり、継続できたことが自信になった選手たちにとって、また支え合いチームの力で挑んだ日本選手団にとって次につながるオリンピックになったと思います。

これらの取組は学校で求められている力の一つである「学びに向かう力」でもあります。学校では主体的に学習に取り組む態度の育成が求められていますが、この態度には粘り強く取り組もうとする側面と自らの学習を調整しようとする側面があります。この側面は教科等の学びだけでなく、運動や文化的活動等にも求められている力です。また、これらの側面は多様な他者と協働する中で育まれる力でもあります。生徒の皆さんも多様な他者からの学びや刺激、支え合いを通して、粘り強く自己調整を重ねながら自分の好きを育み、得意を伸ばして行ってください。